

昭和47年度 和歌山県文化奨励賞

き むら りょう へい
木 村 龍 平

住 所：和歌山県田辺市

出 身 地：和歌山県

生 年：大正9年

◎業績及び経歴

昭和13年県立熊野林業学校を卒業して渡満、元満州国産業部林野局に就職。昭和16年軍隊に入り、翌17年不幸にして軍務により両眼を失明。昭和21年から昭和23年までの間、はり、きゅう、マッサージを修得して現住所での開業のかたわら、身体の不自由を克服して文学活動が続けられ、昭和33年に小説「七夕」を発表して、グランプリ国際盲人文学賞を受賞。

昭和44年の第1回全国盲人俳句大会で特別賞を受賞。さらに昭和47年7月、毎日新聞創刊百年記念懸賞論文に応募「ひとりのための社会福祉」が入選、毎日日本研究賞を受賞された。このほか、県内小・中学校の校歌、婦人会等各種団体の団歌の作詞が百数編にもおよび、なかでも、全国身体障害者スポーツ大会の歌「不自由をのりこえて」が氏の作詞によるもので全国で愛唱されている。北海道点字図書館の声の月刊雑誌「北海ジャーナル」の短歌と俳句の選者をつとめ、また田辺市で俳句教室の開設、点訳奉仕団の指導など幅広い文化活動をつづけられている。